

令和8年度神戸大学前期日程 入試問題『出題の意図・評価ポイント』

国語

- ※1 この『出題の意図・評価ポイント』についての質問、照会には一切回答しません。
- ※2 配点（素点）は入試問題に記載してあります。
なお、本学入学者選抜のための教科・科目ごとの配点については、令和8年度神戸大学学生募集要項を参照してください。

【出題の意図・評価ポイント】

一（現代文）

学力の三要素のうち「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価するために、長文の評論文の内容理解について記述式で解答する読解問題を出題した。

問一・問二・問三

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を多角的に試す記述式問題。それぞれの傍線部の意味を正確に理解するには、何よりもまず語彙にかんする一定水準の知識が欠かせない。また、たんに傍線部の前後の二、三行だけを手がかりにするのではなく、より大きな文脈の論理の展開を丁寧にたどりながら、傍線部の意味内容をとらえる思考力と判断力も必要となる。そのうえで、解答に盛り込むべき内容を制限字数内で正確かつ簡潔な文章にまとめる技能、そしてそれをさらに説得力のある文章へと練り上げる表現力も求められる。いずれの設問も八〇字の制限字数内で解答をまとめることを求めており、それによって語彙力や思考力・表現力などを総合的に評価することを狙いとする。

問四

基本的には問一・問二・問三と同じ趣旨の設問だが、本文全体の論旨をふまえて一六〇字の制限字数内で解答をまとめることを求める点で、より高度な読解力を試すことが意図されている。四〇〇〇字を超える長文テキストを素材に、個々の論点を的確に押さえながら全体を貫く論理の筋道を正確に読み取るという、論理的な思考力がここでは何よりも求められる。しかも解答の制限字数もやや長いため、必要な論点をただ列挙するだけでは十分ではなく、それを論理的に構成し論述する文章構成力が必要となる。問一・問二・問三で求められていた以上に高度の「思考力・判断力・表現力」を総合的に判定することがこの設問の狙いであり、評価のポイントもそこにある。

問五

標準的な漢字の書き取りを課すことで、語彙にかんする「知識・技能」を試す問題。ただし、いずれの漢字も文脈を正確に理解する読解力がなければ書けない語彙であり、その意味で間接的に「思考力・判断力・表現力」を試す設問でもある。

二（古文）

問一

- ①現代語と異なる「おのづから」の意味と、後半の文法構造とを理解して訳せているかを問うた。
- ②過去・現在それぞれの状態がどのようなものなのか、文脈に沿って理解できているかを問うた。
- ③「うつし心ならぬ」の内容とその主体を理解するとともに、頻出古文単語である「けしき」を正しく訳せるかを問うた。
- ④「いかめしきさま」の内容を理解し、全体が現代日本語として自然な文になっているかを問うた。

問二

徳言たちがそのような境遇に置かれた経緯など、前半の内容を理解できているかを問うとともに、必要十分な事柄を制限字数以内で簡潔に論述できるかを問うた。

問三

作者は一途に夫を思い続けた陳氏の殊勝さを好意的に述べているが、それよりもむしろ陳氏を寵愛していたにも関わらず夫の元に帰した親王の措置の方を高く評価しているという構造を理解できているか、またその内容を制限字数以内で的確に論述できているかを問うた。

問四

基本的な文法事項を理解できているかを確認した。

問五

古文常識に属する事柄についての知識を確認した。消去法による解答もできるよう、選択肢問題とした。

三（漢文）

問一

愈、幾何、耳、雖など、漢文の常用語が正しく読めるかを問う。

問二

再読文字「未」を正しく書き下せるかを問う。

問三

再読文字「当」を正しく理解しているか、また登場人物の会話内容を理解しているかを問う。

問四

前段の発話の滑稽なところを読み取れるかを問う。

問五

問四の内容を踏まえ、登場人物の言葉と冒頭に引用された楽府との類似点に気付けるかを問う。